

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000433		
法人名	医療法人 英生会		
事業所名	英生会 グループホーム ゆめみの		
所在地	江別市ゆめみ野東町33番10 (電話) 011-391-3229		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年8月24日

【情報提供票より】(平成19年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月19日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤15人, 非常勤3人,	常勤換算11.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建て	1 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	・光熱水費20,000円 ・暖房費 2,000円(4月・5月・10月) 5,000円(11月~3月)		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 0 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(7月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	3名	要介護2	7名			
要介護3	5名	要介護4	3名			
要介護5	0名	要支援2	0名			
年齢	平均	83.9 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野幌病院・野幌歯科・訪問看護ステーションのっぽろ
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の姿を通じたホームの特徴は、一人ひとりが主人公で表情が豊かで明るい事である。職員と利用者の間には介護する人される人の垣根がなく、近所の奥さん・親戚の子供や孫となり、寄り添い目線を合わせ親しげな会話の中でサービスの提供を行なっている。職員は共に過ごす生活の中で教えられ・助けられる・励まされる場面を実感し、優しい心に触れ感謝の関係を基盤に和やかな協働の生活を築いている。法人母体と事業所の理念は一体的にとらえ、年度ごとに総統括部長より示される方針・目標を下に、所長・ユニット・職員個々へと具現化し、全人間形式を基盤にプロ意識を持った職員による実践化の取り組みが、利用者の生活を作りあげ姿となって現われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「市町村とのかかわり」・「地域への啓発交流促進」などの課題は、所長により法人母体と全職員に報告がなされ、即刻改善に向けて取り組みが行われた。市町村や地域住民との双方向的な交流活動が軌道に乗っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	所長より、全職員に自己評価の意義・ねらい・活用方法などについて説明・周知し実施している。評価の結果、改めて取り組んで行きたい項目はなかったが、個々の職員はケアのマンネリ化を防ぐ戒めになり、質の改善・向上に活かすことができている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	18年10月に初会合を持ったが、メンバーの都合により3回の開催で止まっている。事業所の概要・利用者の生活・事故の現状と対応・自己評価の結果や行事などについて報告がなされ、意見・要望などを基に質の改善に活かしている。尚、同会議には多数の家族の出席をお願いし、状況により法人職員が退席し家族の苦情表現の場として、質の改善や運営に反映している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は、利用者を中心にした家族とのコミュニケーションを大切にしている。特に担当制を採用し率直な意見を言ってもらえる雰囲気作りに努めている。介護計画作成時には、意見・要望などの表現の場を設け、苦情受付の窓口も設け、運営推進会議における意見・要望を話せる場面作りなどを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、夏・秋祭りや文化祭・花壇作り・注連縄作りなどの行事に参加している。また、法人母体が主催する夏祭り・作品展示会・講演会にも地域の人達が大量集まり、双方向的な交流を行っている。近所の人達とは、人・物の交流や交換も盛んに行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「地域に密着し信頼され親しまれる～」を掲げ、地域密着型サービスの意義を全職員で確認し地域との関わりを強化している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は法人母体と事業所の理念を一体的にとらえ、具現化・実践化に努めている。個々の職員は携帯しているネームプレートの裏に理念を添付し、理念そのものの心を理解し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、お祭り・文化祭・花壇作りなどの行事に参加している。また、法人母体や事業所が主催する夏祭りには、地域の人達が大勢集まり共に楽しみ交流を深めている。近所との日常的な物の交換や、人の交流は盛んである。自治会と事業所は双方向的な交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	所長は全職員に評価の意義やねらい・活用方法などについて周知を図り実施した。評価結果には特に「取り組みを期待する項目」はなかったが、個々の職員はケアのマンネリ化を防ぐ戒めになり、質の改善・向上に活かす事ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年10月に初会合を持ち、3回開催している。包括支援センター、自治会長、法人職員の他に可能な範囲で多数の家族が出席している。事業所の概要、利用者の生活の様子、事故発生の現状と対応や行事などについて報告し、意見や要望などを頂き質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口には積極的に訪問している。事業所の運営や、サービスの現状をありのままに報告し協働の関係作りが軌道に乗っている。電話連絡も密に取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の生活の様子を中心に介護や医療について金銭納出状況などについて報告している。2ヶ月に一度「ゆめみのだより」を発行している。毎月発行のスナップ写真に、コメント入りの個別新聞と金銭出納帳の写しと領収書を添付している。また、電話連絡も密にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族とのコミュニケーションを大切に、率直な意見を言って頂ける雰囲気作りに努めている。運営推進会議時には、法人職員が退席し家族が気軽に意見・要望を話せる場面作りを行っている。苦情受付窓口も設置し、意見は速やかに運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員が異動する場合は、利用者には口頭で家族には個別新聞でお知らせしダメージ緩和に努めている。また、異動時期・引継ぎなどケアサービスの継続性・一貫性の配慮を行っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は採用時はもちろんのこと、継続的に行っている。外部研修は、職員の介護実践の習熟度に応じて法人選出による出席が多いが、職員個々の希望も尊重している。研修内容は報告の機会を設け共有を図っている。法人内の講習会やトレーニングなど内部研修も充実している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内には11件のグループホームがあり、月1回「管理者の集い」と「職員交流会」を行っている。法人開催の講習会や行事には同業者に案内すると共に、案内を受けた際には積極的に参加している。また相互訪問は随時行ない共にサービスの質向上を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設時は半数以上が病院から直接の利用者であったが、徐々に在宅からの利用者が増えている。入居希望者には見学・訪問を繰り返し、2週間くらいの期間を設け馴染みの関係作りを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護する人という意識をもたず、日常生活の中で「教えられる場面」「励まされる場面」「助けられる場面」など、優しい心づかいに実感し感謝の関係性を基盤に共に笑顔で和やかな協働の生活を送っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は担当職員と馴染みの関係ができており、家族に対する思いや不安などを話している。それらをカンファレンスで話し合い共有を図っている。また、家族からの情報を基にカンファレンスを経てその人らしく暮らし続ける支援を行なっている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	心身の課題を基に利用者・家族の思いを聞き、職員・ケアマネージャー・看護師でチームを作り介護計画を作成している。必要に応じて医師や理学療法士のアドバイスを受けている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの期間を3ヶ月に設定しているが、短期目標達成時や状態変化時を始め予防的見地により随時見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かした支援を始め、通院・帰宅・外泊時の付き添いや送迎など、柔軟に対応しサービスの提供を行っている。また、地域住民に対して介護に関する保険・医療・福祉などの相談・支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特別な取り決めはないが、入居後の利用者・家族との話し合いにより納得の上で法人母体の協力医により診療を受けている。診療内容によっては、複数の医療機関を利用している利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時の対応・看取りのマニュアルが整理されている。また、終末期における方針を家族に示し承諾書を交わしているが、緊急性を配慮しつつ時間を掛け検討を繰り返し支援につなげている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の諸記録は、他の利用者や家族に見せない、話さない事を基本にプライバシー保護の徹底を図っている。また、個人情報の第三者提供に関する同意書を基に法令を遵守した取り扱いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには基本とする一日の流れはあるが、利用者が望んでいるペースや過去の習慣に合わせ、個別化を視点に当てた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回、入居者と共に献立を考え、希望によっては外食や出前をとることもある。事業所の菜園で、一緒に野菜を収穫し調理を楽しみ、同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。その時の状態により、セミパブリックスペースで食事をする利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することもでき、7:00~21:30の時間帯で利用者の意志や希望を尊重し、常に安全性を考慮した上で対応している。又、希望があれば同敷地内事業所の、大きな風呂で銭湯気分を味わってもらうなど気分転換を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園活動、掃除、ゴミ拾いを始め食事の一連作業など、利用者個々の習慣や希望、有する力などを踏まえた役割を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、外食、ドライブを兼ねた花見や温泉などに出かけている。利用者の気分、体調や天候を考慮し個別化を大切にした外出支援を行なっている。また、事業所前にはベンチがあり、お茶を飲んだり談話をしたりと楽しみの一つになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関は施錠せず自由に出入りができるようにしている。ユニット入口にはセンサーを取り付けているが、利用者の監視を目的に設置しているものではなく、職員の見守りを中心に暮らしの支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に関する避難訓練は、消防署届け出の訓練を年2回、事業所の自主訓練を年4回実施している。災害時の避難・救出マニュアルを作成し、避難訓練後の反省会で課題を明確にし全職員が共有している。また、自治会の消防訓練にも参加しており、近隣住民が一体となった防災体制を呼び掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養摂取量を1400kcalとし、管理栄養士の献立を基に栄養バランスを配慮している。食事制限者には、ご飯の量で調整している。食事や水分の摂取量は記録し、全職員が共有している。尚、水分量は1ℓを基準にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇や菜園の成長を眺めて、五感を刺激し季節感へ配慮している。食卓テーブルや玄関・廊下など思い思いに過ごせる空間には、季節の花や植物を置き入居者の作品を飾るなど居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みのベッドや家具・日用品を持ち込み、思い出の写真や飾り物を掲げている。好みに合った生活環境をつくり居心地よい居室になっている。		

※  は、重点項目。